

平成29年度第1回東京都北区在宅介護医療連携推進会議 要点記録

開催日時 平成29年5月22日（月）午後2時00分～3時55分

開催場所 北区役所 第2委員会室

【会議内容】

1 開 会

2 あいさつ 藤原委員長

3 要綱について 改正点の説明があった

- ・ 第3条 構成員について（別表）

「医師会代表（1名）」の追加

「高齢者あんしんセンターサポート医（5名）」から

「高齢者あんしんセンターサポート医代表（2名）」に変更

4 委員紹介

医師会代表（横山健一委員）、高齢者あんしんセンターサポート医代表（河村雅明委員、今泉貴雄委員）、民生委員・児童委員代表（河奈正道委員）

※河村雅明委員は副委員長を継続

5 会議の公開について

会議は公開とし、検討部会は昨年度と同様に非公開とすることが決定された。

6 議 事

- ① 「介護と医療の連携による地域包括ケアの推進事業」成果報告書【平成28年度】（案）について、了承された。

（主な意見）

- ・ 高齢者あんしんセンターサポート医事業は、あんしんセンターにとってドクターの話を聞けるとても貴重な機会であるにもかかわらず、事例検討会の際に事例の提供が少なかったという現状があった。どうしたら解消できるのかと、あんしんセンターの中でも意見が出ている。
- ・ 高齢者あんしんセンターサポート医の立場としては、事例検討会の場合での事例提供が少ないことについて、普段の日常的なところで相談が結構されてきており、会議の場合での事例提示が少なくなっている印象はある。タイムリーにやるという点では、会議の場合よりは、通常の連携の中で相談いただいたほうがいいかと思う。

蓄積という点では、事例検討会において、今までの経験を踏まえてどういうことが共有できるかという内容にしてもよいと思う。

- 事例検討会で高齢者あんしんセンターの方から提示される事例は、それほど多くはないが、実は日常的に相談のある事例が結構多い。当初は検討事例となったものが、最近是个別に来て、会議で出ないものが段々増えてきた。多分、顔の見える連携ができ、直接頼みやすくなったということがあると思う。
- 自分の地区では、サポート医の活動として3、4カ月の間に気になった事例について、リストを作成し話をするようにしている。その中には高齢者あんしんセンターからの関わりがあったものだけではなく、数年前から継続して診ているものや生活保護でサポート医としての相談件数にカウントされないものなど、あんしんセンターが直接関わっていないが気になるような事例を共有するようにしている。

(質疑等)

- 北区在宅療養あんしんハンドブック、社会資源情報検索システムについて、北区のホームページやシステムのアクセス数等の状況はどうか。
→北区ホームページの中のアクセス数については、カウントはできない状況。医療社会資源情報検索システムについては、事業者へ問い合わせをしているところである。
- 北区介護事業者医療社会資源情報検索システムについて、北区のホームページから、なかなかこのサイトにつなぎにくい。
→ご指摘のとおり、ホームページの深い階層のところに関連リンクがある。ただ、今後できる範囲で、サイトの中のレイアウト構成を整理していく予定である。
- 厚労省が示している在宅医療・介護連携推進事業8項目のうち、「(エ)医療介護関係者の情報共有の支援」に関する北区の取り組み状況について、「ICTネットワークの構築(医師会)」と書いてある。個人情報保護の壁は出てくると思うが、地域包括システム充実のためには、ICTシステムの導入を検討すべきだと思うが、行政として今後どういう対応をしていくのか。
→厚労省のマニュアルでも、医療と介護の連携を進めるための一つのツールとして、ICTネットワークの活用はうたわれているところである。北区医師会で他職種連携の協議体というものを持っていただいております、区も委員として出席し、協議体を運営して、ICTをどのように展開するか、連携が深められるかというところを引き続き検討していくことを考えている。
- これまで認知症疾患医療・介護推進部会の運営を進めてきたが、介護保険事業計画のアンケート等みると、まちの中の高齢者が不安に思っていることとして、がんや脳梗塞といった認知症以外のものへの不安が多くあるようである。在宅生活はしたいが、がんや脳梗塞になり、本当に医療と介護が必要になったときには、

在宅生活は難しいと思っている高齢者は多い。推進会議や部会の場で、今後どのような検討をしたらいいか、何か考えはある。

→今までは、在宅療養の基盤整備という視点で、大きく考えながら構築をしてきたところである。がんの方、非がんの方、認知症の方の最終末期までの経過は、いろいろな部分で差があり、そこを疾患別に分けるべきかどうかは、今後検討していく。

- 報告書（案）に北区の第6期介護保険計画における人口推計値が掲載されているが、高齢者人口の平成29度の推計値と実際のは、わずか2年の間でかなり上方に移行しており、さらに今後情報を修正する可能性が出てきていると思うがいかがか。

→北区では、しばらく人口が33万人台で続いていたが、ここ数年で急激に増え34万人を超えた。若い世代が増えたと言われているが、高齢者も増えており、今年初めて後期高齢者と前期高齢者の割合が逆転し、後期高齢者の割合が50%を超えた。このような現状を医療・介護のそれぞれの現場できちんと受け止めて計画や今後の施策を考えていく必要があると考えている。

→短期的に捉えると平成30年度以降も人口は増加傾向であるが、外国人人口も含んでいることや、高齢化の波もここ数年の推計と変わっていないこと等から、第7期の介護保険事業計画においても、高齢者数の増可見込みは変わらないと考えている。30数年後には日本全体の人口が一億人を割ると言われており、特別区全体では湾岸部の高層マンション等で増えているものの、北区を初め周辺区は、いわゆるファミリー層の増加が湾岸部に比べて少ない。税収もここ数年若干数億円増えているが、金融緩和による影響が大きく、単なる人口増による増加だとは捉えていない。そういう意味でも、これまでの高齢化の増加傾向と、介護保険事業等々の総事業量の増加傾向は変わらないものと考えている。7月、8月に国から指針全体が出てくるので、そのときに具体の数字を合わせて説明していく。

議事②「検討部会の設置」について

- 連携事業部会（継続）、在宅療養資源検討部会（継続）、認知症疾患医療・介護推進部会（継続）の3部会の設置について、了承された。

議事③「在宅療養を進める講演会シンポジウム（案）」について、了承された。

- 平成27年度の検討部会で提案されたが、まだ実施できていない。28年度はきたく介護あんしんフェアの中で、在宅療養に関する講演会を実施したところ。
- 対象は区民向け。
- 連携事業評価部会で詳細を検討し、2月～3月頃に開催。

(主な意見)

- 区民の方が対象ならば、シンポジストにもできるだけ区民や、介護経験者の方が入るという工夫も大事である。
- 区民アンケート等からあがっている不安が少しでも解消できるようなテーマやシンポジストにするとよい。
- 一区民の立場としては、介護と医療の連携について、具体的なイメージがまだまだしにくいので、現場のことはもちろんだが、介護等々を受けている当事者や、その実際の体験、意見も聞けると良いと思う
- 地域医療構想のなかでも、地域の中の病床構成の検討など病院の動きも多く、在宅だけではなく「病院と在宅の連携」という形でのテーマはどうか（意見）

7 報 告

① 在宅介護医療連携推進会議・検討部会のスケジュールについて

- 今年度は高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、地域保健福祉計画の策定があるため、これらの計画に介護医療の連携についての意見をきちんと取り入れていけるようなスケジュール案とした。
- 推進会議本会は今回を含め3回、9月までに各部会2回程度行う。
- 介護保険事業計画については、国の基本指針に基づいて計画を策定するが、国のほうかの指針が出る時期が確定していないため、国の状況によって、スケジュールは多少変わる。
- 地域保健福祉計画は、障害者の計画も含め、四つの計画の策定が今年度末を目途に進むため、四つの計画について、部内で情報を共有しながら漏れのないように進めていく。
- 高齢者保健福祉計画について、計画策定にあたり、在宅介護医療連携推進会議からの意見を、できる限り反映させていきたいと思っている。
- これらの計画は、北区民の方の実態に沿った計画がいいと思う。アンケート結果も地域性が出ると思うので活かしていただきたい。

② 今年度の摂食えん下機能推支援の取り組みについて

- 29年度は、「区民向け講座」「評価医等養成フォローアップ研修」の二つの取り組みを行う。
- 摂食えん下の区民向けの講座は、三日間の3回制で、対象者は在宅療養高齢者の介護者及び家族、関心のある方、定員は実習を踏まえるため30名程度。
- 摂食嚥下機能評価医等養成フォローアップ研修会は、講義（栄養、口腔ケア、摂食嚥下リハ）を1日制。摂食嚥下に関する多職種事例検討会を2回程度。VE

（嚥下内視鏡）等を活用した摂食嚥下機能評価医の実習を行う。対象は昨年度の研修の修了生を中心に募集する。

（質疑等）

- 摂食えん下区民講座について、北区ニュースの掲載予定はいつか。
→6月10日号である。
- 初日の講師（菊谷先生）は、東京都でもトップクラスの講演者で、東京都での講演もほぼ満杯である。定員が30名（申し込み順）とあるが、初日だけでも定員増やせないか。
→定員に関しては、区民アンケートにおいて、より細やかな講座・研修会の要望があり、この人数設定にした。定員増については検討する。
- 評価医養成研修会について、昨年実施したことで、多職種の方々との距離が近くなったので、今年度もぜひよろしくお願いしたい。

8 その他、意見交換

- 認知症カフェであるが、何度かカフェに通ったが「介護者である自分のケアをしてもらえなかった」との相談があった。精神的な介護者へのフォローはどのようにされているか。
→カフェには高齢者あんしんセンターの職員が必ずいる、また年に数回は医師や臨床心理士との相談もできる、気軽に専門職につながっていただける場として想定しているので、もし辛くてすぐ相談したいということであれば、毎週水曜に区で行っている心の相談室に予約いただくと相談に乗れるので、ご案内いただきたい。また、高齢者あんしんセンターで実施している家族介護者教室において、今年度家族者向けのサロンの検討も意見として出ている。